DX3rd Paradise Lost
主要 NPC

水月 灯ー ミナツキ・アカリ

明るく幸せそうな、普通の女の子。
好きなのはクマのマスコットの熊吾郎クン。
PC①に好意的。
セッション序盤「わ、私、狛井君と一緒なら…」
セッション終盤「誰かと戦って、血が流れたりすること。――でも、他の誰かを代わりに守れるんでしょう？」
セッション終了：「私、実は中盤全然喋ってないけど、忘れちゃやだよっ」

三ツ角 元春ー ミツカド・モトハル

明るく活発な少年。焼肉のハラミが好き。
将来の夢は床屋。オシャレさん。ＰＣ②に好意的。
西京寺、はおーくんと仲が良い。
「モテ部。つまりモテ男どもを入れる→女が寄って来る
→俺もおこぼれを貰う→彼女ができる！ふしぎ！俺天才だな！」

「あぁぁぁぁぁぁぁぁいしてるぜえええええええええええええええええ――……？
狛井ィ……田井中ァアアアアアアアアアアアアアアアッ！」

「俺のひき肉ハンバーグ喰い捨てた奴いたろ…あれ一応本当に俺の肉だかんな、チクショー」

西京寺 巳戸子ー サイキョウジ・ミトコ

お嬢様。西京寺財閥の御令嬢。家族と仲が良いのか悪いのか微妙。
三ツ角とは結構一緒に帰る。執事の衣文/えもんと何時も一緒。
「さ、次は何処へ行けばいいの、衣文」
「今夜はピアノの稽古と会食です」

「何処へ行くの、衣文」
「此方へ、お嬢様はお隠れを」

「さ、次は何処へ行ったら良いかしら、響夜」
「あなたの望むなら、何処へでも」

十七夜 たたら ー カナキ・タタラ

真面目な委員長タイプ。弟と二人暮らしでしっかりもの。
悪や不正、怠けを赦せないタイプ。九に一方通行の愛。
大根の皮はちゃんと途中で切れないように剥きしょう。

「コラーッ！危ないモノ振り回さない！この不良ども！」

「わ、私だって――こんな事したくなかったッ！」

「見える死亡フラグとか言わないでよ！私はきっちり仕事はこなしたわ！」

子子子子 九 – スネゴシ・イチジク

根暗な少女。タロットカード好き。オカルト研究部所属。
はおーくん、三ツ角と仲が良いらしい。てんしさまはいるよ？

「アピス・パロケト。セフィロトの樹、登りましょう……？うふふふふふ…」
「私は天使なのっ！ニンゲンごときが逆らうなんてぇっ！」

「お父様の愛が欲しかったの。楽園でそれを願うつもりだった。
でも、最初からそんな願い意味なかったの。楽園へと至れば、それでお父様は私をあいしてくれるって、いったから…。」

相楽 一葉 – サガラ・イチヨ

ミリオタ少女。モデルガン等をたまに「自衛の為」と持ち込んじゃう困ったちゃん。
十七夜によく怒られて職員室へ連れて行かれる。
自分を軍人だと良く漏らし十七夜に怒られて職員室へ連れて行かれる。
「わ、私は軍人だぞ！　最低限の自衛兵器は…十七夜っ！話を聞け！」

「黙れ、優越主義者が！――私はティンダロス第三特務隊少佐級、相楽一葉であるッ！」

「もう二度と、子子子子や、三ツ角のような人間は出したくない…あいつらも被害者なんだ」

中村 覇王樹 – ナカムラ・サボテン

魚屋の息子。あだ名ははおーくん！
好奇心は旺盛で、三ツ角に良く付き合うほう。割と常識人で三ツ角のブレーキ役。
俺はさぼてんだってば。
「……俺、さぼてんだからな。はおーで覚えるなよ」
「俺が聞きてえよ……お前ら、一体何なんだよっ！」
「俺、完全に生贄羊だよなー…地味って言うなよ」

神座 蔵人– カンザ・クラウド

英系ハーフ。物静かで大人びている。というか、あまり喋らない。
ボードゲーム好きで常時チェスを持ち歩いている。人付き合いは結構良い。
この世は既に打ち始めてしまったチェス盤のようなものだ。

ツータイム・実験観察記録係コードネーム：ビショップを持つエージェント。
ノイマン/バロール/ブラムストーカー。

「ゲーム、スタート」
「我々は計画外の因子に影響を及ぼす事を好としない――それに、友人を助けるのに理由がいるか」
「田井中の背中が寂しそうだから、誰か助けてやって欲しい」

子子子子 十　－　スネゴシ・ツナシ

楽園教の教祖。
楽園への扉を開こう、と説く。
終末主義臭い。
「サンジェルマンよ、私を助けに――！――…、わ、私こそが……サンジェルマンに……」

十七夜 海戸 －　カナキ・カイト

十七夜の弟。穏やかで気配り上手。
姉のシスコンぶりにやや辟易。
「お姉ちゃんはちょっと心配し過ぎだよ」
「僕薬中状態！でしか出番無かったけど…いつか登場できたらいいな」

西京寺 孝三　－ サイキョウジ・コウゾウ

西京寺グループの代表。
妻を亡くしている。
「楽園にて、妻と会おう。美しき調べの儀式と共に、死吟士と共に」

水奈月 切継　－　ミナツキ・キリツグ

FH ツータイム元所属研究員。
エンドレスナインを偶然生成してしまい、その研究のプロジェクトリーダーにされてしまった。
なまじ有能であり、友人の誘いで軽い気持ちでツータイムの手伝い、気付けば抜けられぬ泥沼にいたらしい。なんと、オーヴァード能力保持者ではなし。
「私は恐ろしい事をしてしまったのではないか、と、気付いたんだよ、嵐山……」
「料理だけは母さんの部分を継いで欲しくなかったよ、我が愛娘…」

柿栖川 秀人　－　カキスガワ・ヒデト

UGN アッシュ・レドリック直属の部下。
全国 UGN で支部長級が足りない所を巡る係とも言う。
カカッと軽い調子で人気者。（便利屋的な意味で）あちこちふらふらしている。
僕は RC ピュアサラマンダーちゃん！エンハイ氏ね！

FH セル・ユークロニアのセルリーダー。
女好きで潔癖症。

「こんにちはァ。 UGN のモノですぅ。あのー、アンタが調査行く F 町？あるやない。あそこで、妙なもんがあったら、俺に教えて欲しいんよー」
「俺は応言うとくけどね、ジブンらより階級上やからね！あ、治療班呼んどきますねーボク」
「神だの何だの、最近の子って元気良過ぎと違う？」

「さよーならー、つまーびーくー。
皆、お・ま・たー！　イケメンの俺が、最後の挨拶にきてやったよん？」
「……こんなのと同じ扱いだなんて、不本意なの。我慢するけどね……？」
「私なんてそもそも、本当に無実じゃない！　私のセリフよ、それっ！」
「まあまあまあ。仲良く行こうじゃないの、ハニー達。」
「……」
「あ、ハニーじゃねえ野郎もいたか」

「フン、テロリストに優越主義者の集まりとは…何なのだ、あの学校はッ！」
「お前はお前で怪しい組織の所属だからな？！」
「全くですわ。…然し、お父様のやったこととはいえ、皆様にはご迷惑をお掛けしましたわね…」
「だいじょぶだよ！　三ツ角君と子子子子さん以外は、ちゃんと皆生きてたし、助けようとしてくれたじゃない」
「…ありがとう。でも、私、この事は忘れませんわ」

あっ、お父様。お父様。

わたくし、最近仲の良い友達ができましたの。　孤児院の子で、名前は――

「あれには近付くんじゃない」

「……え？」

あれは、実験作。
ヘルメス計画に端を発したジャーム量産計画の出来損ない。
長期的持続ストレス加圧でないと。
父はいつもの優しそうな顔じゃなくて、とてもこわいかおでそんなことを、私のことなんて見えないように、苛々と呟いていたのを覚えている。

父と母の愛を一心に受けて育った。

その身にひびくその痛みこそが、愛の証なのだといつしか考えるようになり、

俺の愛し方は、いつしか父と母からもらったそれになった。

それを友達に話したら、その子はとても哀しそうな顔をした。
愛しい友達も、好きな子も。俺はもしかして、愛してはいけないんじゃないか、と、想った。
それでも愛したいのに。
心がすりへってゆく……それと同時に、底から、何かが溢れて、まるで力のようなものを感じた。

生まれた頃からそこに所属。
被検体の王となるべくした。
欲望とは何か。
何かを取り返すこと？
何かを得ること？
何かを傷つけること。
実はどれにも興味が無い。
見つけたい。「欲望」とは、何なのか。
それが僕の欲望。
人形には過ぎた想いなのだろうか。

最初は嫌いだった。
お父さんと、お母さんはあの子ばかり気にして、---である私の事を蔑ろにした。
どっかいっちゃえばいいのに、って。想った事もある。

私のこと、愛してるってお父さんはいった。
世界で一番よ、って、お母さんもいった！
あの子のせいだ。　あの子のせいで、私は世界で一番じゃなくなった。
だから、意地悪してやろう、つねるぐらいならと想って覗き込んだら、
笑顔を向けられた。

私はその日から、たった一人、世界で一番自慢の---であろうと努力している。

父だって母だって、いつも被害者だったのだ！
何が平穏なる世界だ。この、この、――力に酔い、正義を振りかざす悪魔どもが！
それならば、テロリストどもの方が大分、マシだ。
叩いて潰してしまってもいいのだから。
然し、あの力に酔い、-#(!$(!（滅茶苦茶な字で、読めない）な連中は、
世界中に根を張り、まだ善い人面を続けている。
それで？　それで？　それで？
父も母も、あの日死んだ。
あの暑い陽の注す日、お前らの所為で！

昔から友達だけど、
最近、どうも様子がおかしいんだよ。
―…分かってる、分からないだろ？お前には。俺も、本当に、
アレなんだよなー。その―……、勘、なんだ。
…笑うなよ。

あいつ、いつも無理して笑ってるんだ。
でも楽しそうなんだ。でも無理して、笑ってる。
まるで笑い方も知らないみたいか、それとも――

でも、最近は、さ。
心の底から笑ってるみたいなんだ。
なんでだろ。

え？小さい頃からの夢が叶う？

―…なんで俺には言わねえんだよ。

車を回させた。
これ以上ここには居れない。

あの方はいつも寂しそうにしている。
それでも、素直に寂しいとは言えない。
父も、友も、それを言えない相手だからだ。
いつしか、寂しそうには見えなくなった。
今が楽しいのか、人との絆など、どうでもよくなってしまったのか。

恐らく、前者だろう。
何もかもを失くしても今、この方は笑っている。

御父上の慈しみを、確りと受け継いでおられるこの方に、今度は尽くすとしよう。

父の顔は、よく覚えている。
幼い頃、遊んでもらった記憶もある。
だけど、それらはぼやけていて――。
一番印象にある顔が、
白衣を着たまま、手術台の上に乗せられた私を、
とても哀しそうに見つめていた、
泣きそうな顔だった。

なんで……？

その何日か後に、父は死んでしまったらしい、と後で知った。

でも、彼が転校してきて。
屈託なく笑う顔を見て、なんだかどきどきしていた。
なんだろう。

思い出した。
父の、幸せそうに笑っていた顔。
なんで、思い出せなかったんだろう。
……父が死んでいたあの時から、きっと進めていなかったからだ。

時計の針が動き出す。
ペンダントの、響く秒針の音を抱きながら、
今日も私は彼の隣で、彼の笑顔を見続けている。

「それで？どないするのん、今回の手落ちー。ドクターも怒ぅてらっしゃるのと違うん？」
「UGN の貴様に言われる筋合いは無いな」

「そないなコト、今は言いっこなしやーんゆかりーん。　別に喧嘩しよ想うて来たわけとちゃうしね」
「？　ならば、」

「蓬莱人形ってしっとる？」

「……何だ、それは」

「！　今、クッサい FH の匂いがしたわ！」

「何言ってるんですか支部長」

海堂 月海　－　カイドウ・クラゲ

私立天文学園教師。
乱暴な口調とは裏腹に生徒思いで丁寧な授業をする事に定評のある英語教師。
「クラゲちゃん」なんて呼ばれると破王白墨終焉激滅投を使わざるを得ない。

「ファンディスクで攻略可能なんですよおめーらー」

神座 絵里座&亜理子　－　カンザ・エリザ/アリス

神座蔵人の妹たち。
彼の複製体。
絵里座は亜理子とは別の性別であり、
亜理子は絵里座とは別の性別である。

ほぼ出演予定無しの、セッションが収集付かないとき用の最後の手段として用意。

「では行きましょう、お兄様。お兄様が困ってる」
「そうね、お姉様。大兄様が困ってるわ」

「ファンディスクで攻略可能なんだって」
「買って貰えば二期が１クール作れるわ。お願いね」